

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ボーダレスアーツスペースHAPつるみ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月12日	～	令和7年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日	～	令和7年12月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	HAPシンツるみの大きな強みは、スタッフにアーティストを採用し、子どもの表現を「作品づくり」として丁寧に支えられる点です。子どもの「やりたい」を大切にしながら、画材や道具の扱い方、表現の広げ方のお手伝いをします。結果として、保護者の方からも「やりたい活動を支えてもらい、その時の心の動きまで見守ってもらえている」「短い時間で仕上げて帰ってくるので達成感がある」といった安心感・満足感につながっています。	子どもの「今の気持ち」「やりたいこと」に合わせて、制作内容を押しつけずに提案し、選んでもらう関わりを徹底しています。アーティストスタッフの得意分野(描く・つくる・立体等)を活かし、同じ題材でも子どもがやりたい表現をかねる手法へ柔軟に変えています。作品の出来栄だけでなく、集中の持続、試行錯誤、自己表現の言語化など、過程を大切に記録し、支援計画や振り返りに活かしています。	アーティストスタッフの支援技術(声かけ、感覚過敏への配慮、クールダウン支援等)を共有し、誰が関わっても同じ安心感が出るよう研修・事例検討を充実させます。作品展示や鑑賞体験など「外へひらく表現の機会」を増やし、子どもが自信を持てる成功体験につなげます。アート視点のアセスメント(得意な感覚、集中の条件、疲れやすさ等)を整理し、個別支援計画へより分かりやすく反映します。
2	子どもが自分らしく過ごし、安心して挑戦できるように、活動の場を分けたり、必要に応じて落ち着ける場所を用意したりするなど、環境づくりに力を入れていることも強みです。保護者の方からも「落ち着いて過ごせる場所と体を動かして遊べる場所が分かれていて良い」「やりたい活動に合う過ごし方ができるよう空間の範囲が分けてある」といった声があり、子どもが自分で選びやすい環境になっています。小部屋の使い方についても、子どもによって違ってよい、という考えのもと、柔軟に運用できることが強みです。	画材・道具の場所を分かりやすくし、「自分で取りに行ける」「自分で片づけられる」流れをつくっています。個別スペース(小部屋、パーテーション、テント等)を、休憩・気持ちの切り替え・集中制作など、子どもの状態に合わせて使い分けています。清掃・整理整頓を継続し、安心して過ごせる空間を保つよう努めています。	小部屋・個別スペースについて「使い方は子どもによって違ってよい」ことを前提に、安心・安全のルールと選択肢(例:休憩用/静かな制作用等)を整えます。体を動かす活動が必要な子どもに合わせて、時間帯や場所の使い方を工夫し、よりバランスのよい活動環境を検討します。
3	アセスメントから個別支援計画、日々の記録、支援後の振り返りまで丁寧に行い、支援を継続して改善できる仕組みがあることも強みです。保護者の方からは「支援計画で専門的な視点を伝えてくれて助かる」「利用後に様子を言葉にして分かりやすく伝えてくれる」といった声があり、家庭の安心感や子育ての参考につながっています。子どもの「今日の状態」をチームで共有し、個別活動と集団活動を組み合わせながら、その子に合う支援を続けられています。	支援後のミーティングで、子どもの状況と支援内容を振り返り、次回に活かしています。記録を残し、スタッフ間で共有できるように整理・データ化を進めています。サポートシート等「保護者の希望を確認し、計画の見直しや支援内容に反映しています」。	記録のシステム導入等を検討し、情報共有のスピードと質を上げます。打合せ時間が短い日でも要点が漏れないよう、チェックリスト化などで安定した連携を目指します。アート活動の成果を「作品」だけでなく「自己調整」「対人」「挑戦」等の成長として整理し、保護者へ伝わりやすい形にしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	HAPつるみでは、専用アプリに加えて、普段から使い慣れているLINE・メール・電話でも連絡ができるようにしており、保護者の方が状況に合わせて選べる体制を整えています。また、専用アプリの利用ガイドも配布し、安心して使えるよう工夫してきました。いっぽうで、保護者の方によっては「ちょっとした変化や気になるところを、どの手段で、どのように伝えるのが一番よいか」が迷いやすい場面があり、情報のやり取りをよりスムーズにするために、もう一步「分かりやすさ」を整える余地があると考えています。(※体制そのものは用意できているため、弱みというより「より安心を高めるための改善点」として捉えています。)	アプリは便利な一方で、入力場所・目的(連絡/相談/共有)が直感的に分りにくい場合がある。保護者のIT慣れや忙しさに差があり、「伝えたい時に迷わない仕組み」になりきれていない。非常時対応や安全計画等の周知も、伝えられるつもりでも「読み手に届く形」がまだ統一できていない。	アプリは、保護者の方が迷いやすいポイント(入力場所、写真の添付、相談の書き方等)を中心に、具体例つきの補足ガイドやミニ説明(数分)を行います。“どの方法でも受け止める”姿勢を大切にしつつ、職員側でも受信した情報をチームで整理し、支援に反映できるよう共有ルールの統一を進めます。
2	日々の支援や面談、連絡帳・アプリでの共有は丁寧に行っている一方で、保護者同士が安心して情報交換できる機会(保護者会、きょうだい支援、家族向けの学びの場など)は、十分に行き届いていない面があります。「あるのは知っているけれど参加したことがない」「よく分からない」という声もあり、必要な方に届いていない可能性があります。家庭での困りごとは、ちょっとしたヒントやつながりで案になることも多いため、ここは今後の伸びしろと捉えています。	ご家庭の予定が多く、集まる形式だと参加のハードルが上がりがち。個別支援が中心で、保護者同士の交流の場づくりが後回しになりやすい。何を目的に、どんな内容で、どれくらい気軽に参加できるかの説明が不足しがち。	まずは年1～2回、短時間で参加できる「ミニ交流会」(作品鑑賞+近況共有など)から始めます。対面が難しい方向けに、紙やオンラインでの「Q&A・情報共有」(匿名可)も検討します。
3	HAPつるみでは、地域に開かれたイベントやお出かけ等を通じて、子どもが社会とつながる機会をつくっています。また、身体活動も公園・外遊び・地域の場への参加などを組み合わせて行っています。いっぽうで、地域交流や関係機関連携、第三者評価などを「担当者の頑張り」だけに頼らず、毎年安定して回る仕組みにしていく点は、まだ伸ばせる部分があります。特に就学前機関との情報共有や、外部の視点を定期的に取り入れることは、支援の質の底上げにつながるため、今後さらに整えていきたい領域です。	連携先が多く、情報共有の手段・頻度・担当が統一されにくい。第三者評価は委員はいるが、評価の実施や活用の仕組みがこれから。地域交流・身体活動は実施できている一方、天候や日程に左右されやすく、年間計画として見えにくい。	就学前機関・学校・相談支援等との連携について、年間の「連携チェック項目」(いつ・誰が・何を共有)を作って抜けを防ぎます。第三者評価は、年1回の実施→改善計画への反映→公表までを一連で回す形を検討します。身体活動は「外で動く」「室内で安全に動く」の両方を用意し、天候に左右されにくいメニュー(室内サーキット、リズム運動、感覚遊び等)も整えます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ボーダレスアートスペースHAPつるみ

公表日 令和8年1月30日

利用児童数 令和8年1月17日 23人

回収数 14

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	0	0	0	座ったり動いたり活動しやすそうに思います。	これまで通り、活動がしやすいように空間を用途ごとに分ける工夫（制作・落ち着く・遊ぶ等）を続けます。身体を動かす活動については、「できない」のではなく、室内でできる運動あそび・外遊び・公園等の活用を組み合わせ実施しています。今後は、混み具合や活動内容に合わせて、その日の“動けるスペース”を確保できるようレイアウトや時間帯の工夫を進めます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12	0	1	1	子供のやりたい活動を支援してもらい、その時の心の動きまで見守ってもらえていると思います。とてもありがたいです。	お子さまの「やりたい」を大切に、気持ちの変化も含めて見守る支援は、今後も大切に続けます。送迎を含めた体制については、日によって負荷が高くなることがあるため、職員間の役割分担・応援体制・当日の調整をより丁寧に行い、無理のない運用を心がけます。安全を最優先に、必要に応じて送迎の方法や時間の調整のご相談も行いながら、安定した体制を整えていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	0	2	2	やりたい活動に合う過ごし方ができるように、今後も配置の工夫・ラベリング・掲示などを続けます。施設内の様子分かりにくい方には、必要に応じて**簡単な見学案内（写真つき説明、当日の活動場所の説明）**を行い、「どこで何をしているか」が伝わるようにします。バリアフリー面（車いすトイレ等）は維持しつつ、より安心できるような細かな点検も続けます。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	12	0	2	0		
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	0	0	1	子供のやりたい活動を支援してもらい、その時の心の動きまで見守ってもらえていると思います。専門的な視点で支援してもらい親子共にとてもありがたいです。	お子さまの表現を支えるため、アーティストとして活動するスタッフも含めたチームで関わり、「作りたい」を形にする支援を今後も続けます。できた作品だけでなく、その日の気持ち・集中の様子・困りごとなども丁寧に受け止め、達成感と安心感につながる関わりを積み重ね
	6 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14	0	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	14	0	0	0	この支援計画で専門的な視点をお伝えしていただき、とても助かっています。	ご家庭での困りごとがある場合は、計画の内容と結びつけて、具体的な対応のヒントも共有できるようにします。
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13	0	0	1	分かりやすい書面をいただけて、子育ての参考になります。	分かりやすい書面づくりを継続し、必要に応じて、一般的な専門用語は日常で使う一般的な表現に言い換えながらご説明します。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	14	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10	0	2	2		

	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	0	4	6		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	14	0	0	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13	0	0	1		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング ※5 等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	0	1	7		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	13	0	1	0	利用した後に様子を言葉にして分かりやすく伝えていただき、とてもありがたいです。	今後も利用後の様子を伝えていき、より信頼していただけるように努めてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6	0	6	2		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	0	3	8		
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10	0	1	3	相談をさせてもらえるという、安心感があります。	ありがたいお声として受け止め、今後も「相談してよい場所」と感じていただけるよう、丁寧な対応を続けます。相談の入口が分かりやすいように、相談の方法(LINE/メール/電話/面談/アプリ)と内容例をまとめて周知します。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13	0	0	1	アプリになってまだ慣れないせいか、以前のように手書きのノートが良かったかなと子供のいつもと違う様子や、今気になる行動や変化など、ちょっとしたことで子供の様子を伝えたい時にどこに入れたらいいのかよく分からない	専用アプリが苦手な方に向けて、LINE・メール・電話でも連絡できるよう対応しています。今後もわかりにくいと感じることについては説明させていただきます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	12	0	1	1		
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	0	0	1			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9	0	0	5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	0	1	7		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	0	0	2		
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	0	0	2		
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	14	0	0	0	安心して過ごせる自分らしくいられる場所だと思います。とても楽しく通わせていただいています。	「自分らしくいられる場所」「安心して過ごせる」と感じていただけていることを、職員一同とても嬉しく思っています。今後も、来所時の表情や気持ちの変化を丁寧に受け止め、無理のないペースで過ごせるよう環境を整えてまいります。落ち着きたい時に選べる居場所や声かけの仕方をお子さまに合わせて工夫し、安心して「ここで大丈夫」と思える時間を積み重ねていきます。

満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	13	0	1	0	行くことを楽しみにしています。	行くことを楽しみにしている」というお声をいただき、励みになります。これからも、お子さまの“やりたい”や興味が育つように、制作・遊び・外出などの選択肢を用意し、その日の気持ちに合う活動を一緒に選べるよう支援してまいります。また、楽しさが続くように活動が固定化しない工夫や、達成感が得られる関わり（できたことの共有、次につながる提案）も大切にし、通所が前向きな経験になるよう取り組みます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	0	0	0	楽しく安心できる支援に感謝しています。 いつも息子のやりたいに寄り添って、大きな紙に絵を描かせてもらったり楽しい体験をさせてもらっていてありがたいです。引き続きよろしく願います	日頃より温かく見守っていただき、また「やりたいに寄り添ってくれる」「大きな紙に絵を描くなど楽しい体験ができた」との具体的な言葉までありがとうございます。今後も、アート活動を強みとして、お子さまの表現したい気持ちを大切にしながら、達成感や自己肯定感につながる経験を増やしていきます。あわせて、活動のねらいやその日の様子を分かりやすくお伝えし、ご家庭でも成長を実感していただけるよう共有を丁寧に行います。引き続き、安心して任せていただける支援を積み重ねてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ボードレスアートスペースつるみ				公表日	令和8年1月30日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		限られた空間でも活動がしやすいよう、収納・物品配置・導線を整え、定員と活動内容のバランスを点検している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準以上の配置を基本とし、こどもの状態や場面に応じて見守り厚めの体制を取れるよう調整している。	「やりたい活動」を安全に支えるため、特性・活動内容に応じた人員配置（スキルを考慮）をさらに工夫する。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		道具や画材は分かりやすく配置し、車いす対応トイレ等、設備面の配慮も行っている。	クールダウンや感覚調整の選択肢を増やし、見守り導線と安全面を点検する。保護者にも「どんな配慮があるか」が伝わる工夫を行う。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		整理整頓と清掃を継続し、安心して過ごせる環境を保つよう努めている。	備品更新を整理し、より快適に過ごせる環境づくりを進める。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		小部屋・パーテーション・テント等を活用し、落ち着く/集中する等の目的に応じて場を選べるようにしている。	小部屋の使い方は「子どもにより違ってよい」という前提で、目的の選択肢（休憩・集中・着替え）と安全面のルールを整理し、チームで共有する。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定例ミーティング等で現場の声を取り入れ、目標と振り返りを共有している。	決定事項・担当・期限が残る形に整え、改善が「やりっぱなし」にならないようフォローする。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		自己評価アンケートだけでなく、サポートシート等で希望を確認し、改善の参考としている。	「いただいた声→改善した点」を分かりやすく還元し、保護者に見える形で共有する。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		自己評価アンケートや面談等で意見・改善提案を把握している。	運営と現場の情報共有をさらに密にし、現場の気づきが早く改善に反映される流れを整える。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	外部評価にまでは至っていない。	第三者委員は設けている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内部研修を定期開催し、外部研修も案内して参加しやすいようにしている。	年間研修計画を明確にし、eラーニング等も含めて学びやすい環境を整える。外部の研修サービス利用も検討する。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムをホームページ等で公表している。	誰にでも伝わりやすい表現に整え、更新情報も含めて周知方法を工夫する。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントをもとに個別支援計画を作成している。	面談・観察・必要に応じたツール活用を組み合わせ、ニーズ把握の精度をさらに高める。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		複数スタッフが計画を確認し、こどもの最善の利益を考える視点を揃えている。	多職種・多視点での事例検討の機会を増やし、支援の選択肢を広げる。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画を共有し、日々の支援が計画に沿うよう確認している。	忙しい日でも要点が揃うよう、要約版やチェック項目を整える。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の観察を基本に、必要に応じてツールも活用して状況を確認している。	ツールの選定・使い方の研修を行い、子どもに合う形へ適宜見直す。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		必要項目が抜けがないようチェックリストと複数の目で確認している。	家族支援・地域連携が「見える」形になるよう、計画内の記載と実施記録をより丁寧に整える。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		さまざまなスタッフの意見を取り入れて立案している。	より意見が言いやすい雰囲気づくりを整える。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		こどもの様子を見ながら柔軟に内容を調整している。	定期的にメニューを振り返り、制作・外活動・交流等の選択肢を計画的に増やす。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		制作などの個別活動と、外遊び・イベント等の集団活動を組み合わせている。	身体を動かす活動の選択肢を安全に増やし、子どもが楽しく参加できる小集団設計を工夫する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		時間が限られる日も、要点（配慮点・役割）を押さえるよう共有している。	打合せ時間を確保しやすい運用（短い定型フォーマット等）を整える。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		必ずミーティングを行い、その日の状況と支援を振り返っている。記録は閲覧しやすい形で整理している。	入力負担と検索性の両立を意識し、必要に応じてシステム導入を検討する。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の記録を残し、共有と蓄積を行っている。	記録の質を揃える工夫（観察ポイントの統一、簡易テンプレ）とシステム導入を検討する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者の意向と日々の様子を把握し、スタッフ意見も踏まえて見直ししている。	モニタリング時に「できたこと/次の一步」をより明確にし、分かりやすく共有する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		創作活動を軸に、自立支援・外遊び・地域イベント等を組み合わせている。	地域に開かれた催しを継続し、地域連携の幅を少しずつ広げる。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		やりたい創作や活動を本人が選び、その実現を支える形にしている。	選択肢の見える化、困った時の頼り方、気持ちの言語化などを子どもに合う方法で増やす。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		こどもの様子を最も把握しているスタッフが参加するよう調整している。	会議内容をチームに共有し、日々の支援に反映しやすい形で整理する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		療育センター、保健所、協力医療機関、学校等と必要に応じて連携している。	連携が必要なケースで連絡が途切れないよう、窓口や連絡手順を整える。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		行事予定や送迎時の注意点、当日の様子などを必要に応じて共有している。	連絡様式を整え、情報が抜けにくい仕組みを作る。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		不十分な面があるが、必要性が高いケースでは、同意のもとで関係機関へ確認し、支援に活かせる情報を少しずつ集めています。	必要に応じて連携を試みている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行先へ、利用状況や支援経過など必要な情報を提供している。	移行前からの面談・引継ぎ会議など、本人と家族が安心できる移行支援を整える。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		定期的なスーパーバイズの機会はまだ確保できていないため“いいえ”としたが、外部のスーパーバイザーを呼んでの研修や助言の機会を設けている。	療育センター等と情報共有は行っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		夏祭り等のイベント招待などを行っている。	交流の機会を増やし、参加しやすい小規模交流から継続的に取り組む。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		必要に応じて研修等へ参加している。	年間の参加計画を立て、学びを事業所内へ共有して活かす。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳・アプリ・送迎時のやりとり等で日々共有している。	アプリ移行に伴う戸惑いにも配慮し、伝えたいことが入力しやすい導線や案内を整える。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者評価の意見も参考にしながら、相談の機会のあることを周知していく必要がある。	必要に応じて助言や情報提供を行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧に説明している。	入所後も見返せる資料（要点まとめ）を整え、質問しやすい雰囲気づくりを行う。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		サポートシート等を用い、本人・保護者の意向を確認している。	定期的に意向を更新し、本人の言葉が出にくい場合も表現しやすい方法を工夫する。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	計画を読んでいただき、同意を得ている。	要点をかみ砕いた説明（1枚要約等）を整え、理解しやすい工夫を続ける。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	必要に応じて相談を受け、面談等で支援している。	「相談できること」をより周知し、相談窓口（方法・時間）を分かりやすくする。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○	機会の周知に課題があるが、ひきつづき、機会を利用してもらえるよう、活動を継続していく。	子ども食堂や遠足等で保護者参加の機会は設けている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	苦情解決体制を整え、必要に応じて行政機関へ報告しつつ対応している。	周知資料の見直しや掲示等で、さらに分かりやすくする。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	刊行物配布、行事予定配布、SNS等で活動を報告している。	「どこを見れば分かるか」を一本化し、アプリ等も含めて届きやすい発信を行う。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	セキュリティ体制を整え、スタッフへ取扱い周知を行っている。	定期点検（運用チェック、研修の振り返り）を続ける。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	必要に応じて伝達方法を変え、個別に配慮している。	より良い方法（視覚支援、短い文、選択肢提示等）を検討し、共有ツールを整える。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	オープンな展覧会や子ども食堂などを実施している。	地域資源との連携を広げ、継続的な交流につなげる。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	緊急時対応マニュアル等を整備し、訓練も実施している。	保護者へ内容が伝わりやすい形（要点資料・報告）で周知を強化する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	BCPを策定し、訓練を実施している。	保護者への周知を分かりやすく行い、安心につなげる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	アセスメント時に確認し、定期的に変化にも注意している。	更新しやすい様式を整え、変化があった時に共有しやすくする。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	指示書に基づき対応している。	スタッフ間の確認手順を定期的に見直し、ヒヤリハット予防につなげる。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	産業医等と連携し、必要なチェックと改善を実施している。	点検結果の活用を継続し、日々の支援に落とし込む。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	保護者への周知が十分ではないため“いいえ”としたが、事業所内ではマニュアルを整備し、職員には共有したうえで訓練も実施している。	周知方法の工夫を検討している。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	○	報告書作成と共有を行い、再発防止策を検討している。	傾向分析（多い場面・時間帯）を行い、予防策を強化する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止研修を実施している。	研修の定期化と、日々の振り返りへの落とし込みを続ける。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	委員会で検討し、保護者説明と計画記載を徹底している。	判断過程の記録と定期見直しを行い、より安心できる運用を続ける。	